

# 国語科教育研究部

【令和3年6月現在】

主任 田澤 真也子

部員 葛西 航, 高橋 憲子

## 目指す子供の姿

### 自覚した言葉の力を言語生活に活かす

小学校国語科における自ら考え自律的に行動する姿を「自覚した言葉の力を言語生活に活かす」と設定し、研究に当たる。

## I 目指す子供の姿について

(1) 「自覚した言葉の力」とは

「言葉の力」とは、自分の思いや考えを他者に伝える力（伝達）・思いや考えを捉えたり深めたりする力（認識）・自分の思いや考えを新たに生み出す力（創造）のことを指す。「自覚した言葉の力」とは、授業での振り返りを通して児童が気付いたこの3つの力を指す。

(2) 「言語生活に活かす」とは

「言語生活に活かす」とは、国語の授業・単元で獲得した学びを、単元を越えたり教科を横断したりして活用したり、学校生活や日常生活においても必要に応じて活用することである。

## II これまでの取組について（成果と課題）

昨年度は納得解を導く姿を「言葉の力を自覚し、自らの言語生活に活かす」と設定し、追究してきた。また目指す子供の姿に迫るために「他者を意識した対話」と「学びを自覚する振り返り」の2点を研究内容として研究を進めた。

成果は、2点ある。1点目は、対話のよさに気づくことができた点である。対話によって自分の考えに自信をもつことができた、他者の考えを自分の意見に取り入れることができたなどの学習経験から、自分の考えを深めたり広げたりするものとして対話を捉えることができた。2点目は、振り返りにより「言葉の力」を自覚することができた点である。「わかったこと」「かかわり」「これから」の3観点で振り返りを行うことで、授業や単元で何をしたかではなく、何を学んだのかを多くの児童が自覚できるようになった。

しかし、以下2点の課題が残った。1点目は、対話における他者への働きかけが弱いことである。先述したように、児童は対話による自分の考えの広がりや深まりから対話のよさを自覚しているが、他者に自発的に働きかけ、互いに高め合おうとする姿があまり見られなかった。つまり、他者の考えをよりよくしようとする意識は十分ではなかったと言える。2点目は、振り返りで自覚された「言葉の力」の活用が不十分だったことである。「これから」（振り返りに基づいた見通し）を書くことはできているが、単元や教科を超えて学びを活用する姿や、自覚された学びが言語生活に転移した姿はあまり見られなかった。

## III 研究内容について

自覚した言葉の力を言語生活に活かす子供の姿を目指し、「他者への働きかけを意識した対話」、「振り返りと既習の活用」の2点を意識した授業づくりを行うこととする。

一年次は研究内容として以下の2点に取り組む。

1 他者への働きかけを意識した対話

対話的な学びの場面で目指すのは、互いに考えを受け止め、互いの考えを広げ深めることである。

対話の的な学びの姿を便宜的に、①自分の考えをよりよくするために他者に働きかける場面と②他者の考えをよりよくするために働きかける場面に分けて考えたい。

①の対話場面における他者は、教室における学習者に限らず、自分自身、教師、作者・筆者等が想定される。他者への働きかけを意識した対話を実現させるためには、互いの考えを十分に理解することが必要になる。そのため、まずは他者からの考えを受け止める対話ができるようにしたい。具体的には、学習者同士の対話において、他者が自分の考えを理解しているかを確認しながら話したり、他者に伝わるように表現を工夫したりするようにしたい。また他者の考えを理解するために精読したり傾聴したりする姿を目指したい。

②の対話場面における他者は、おもに学習者同士を想定している。他者の考えに対してわからないことを質問したり、自分がどのように理解したのかを伝えて相手に確かめたりするなどの働きかけを意識させたい。例えば、発達段階に応じて、比較や類推等の手立てを用いて他者の考えをよりよくする質問や意見をするなどの働きかけを意識させたい。

このように、自分の思いや考えを広げ深めるだけでなく、他者の考えをよりよくしようとする意識を働かせ、他者に自発的に働きかけ、互いに高め合おうとする姿を目指す。

## 2 振り返りと既習の活用

振り返りで自覚された「言葉の力」の活用が十分にできるように、既習の活用を意識した働きかけを行う。児童が「これから」（振り返りに基づいた見通し）に書いたことを、その後の授業や生活でも意識できるように工夫をし、単元や教科を超えて学びを活用する姿や、自覚された学びが言語生活に転移する姿を目指す。例えば、振り返りとして身につけた力を言語化したのち、身につけた力が必要となる場面を意図的に設定し、既習を思い出して活用させるだけでなく、既習を活用したことを自覚させる振り返りを行うことで、「自覚した言葉の力を言語生活に活かす」姿を目指したい。

## IV 研究・検証方法について

研究方法として以下の二点を取り上げ、児童の変容より研究内容の検証を図る。

- 1 授業を記録したプロトコル及び映像を基に分析を行う。必要に応じて PDCA のサイクルに基づいて改善授業を行う。
- 2 分析結果に基づいた改善授業を行うことで分析の妥当性を検討する。

本時で目指す授業

自分の考えと既習内容とを結び付けることで、相手に分かりやすい文章構成を考える授業。

I 単元名 「りんご絵巻物を作ろう」

教材名 「すがたをかえる大豆」

「食べ物のひみつを教えます」(光村図書 3年下)

II 目指す子供の姿に向けて

子供の実態

- ・自分の思いを素直に書くことができる。思いのままに書くことはできるが、書く時に条件を与えられると、書くことができなかつたり、条件を守ることができなかつたりする児童も見られる。
- ・自分と友達の考えを比較し、共通点や相違点を見付けることができる。友達の考えのよい点を自分の考えに生かす力をつけていきたい。
- ・楽しみ、工夫しながら言語活動に積極的に取り組むことができる。目的や相手に応じて工夫を加える経験を積ませていきたい。
- ・発表は積極的で、一つの問いかけに対して多様な考えを出すことができる。自分の考えが、相手に伝わるように意識して話すことや、話を聞くことで相手の考えのよさを見付ける力を高めたい。

単元で目指す児童の姿

本単元では

- ・書くことについて、条件に沿って、文章の構成を工夫しながら書くこと。
- ・読むことについて、既習内容や自分の知識を結び付けながら文章を読むこと。
- ・場面や目的に応じて、相手意識をもちながら言語活動に取り組むこと。
- ・自分の考えも友達の考えもよいところを尊重し、お互いの考えがよりよくなることを意識しながら対話すること。

の4点を目指す。

## 単元について

- ・本単元は、「すがたをかえる大豆」を読んで、読み手にとって分かりやすい説明のしかたや事例の並べ方を学び、「食べ物のひみつ教えます」ではそれらを活用して、実際に説明する文章を書く複合単元である。説明的な文章を読んで学んだ文章の書き方や段落の構成の仕方を実際に使いながら文章を書くことで、身に付けた力を実感し、学びを確かなものにする事ができる。
- ・単元の始めに「こまを楽しむ」など、これまで学習した説明的な文章での学習を振り返る時間を設けることで、説明的な文章の構成を復習するとともに、既習の内容を活用していくことを意識付ける。
- ・「すがたをかえる大豆」では、事例の分類や説明の順序に着目しながら読み取ることにより、筆者の意図や工夫に気付かせる。また、それぞれの段落に書かれている内容に対応して読むことによって、段落相互の関係を理解したり、それぞれの事例を比較したりできる点をおさえ、その後の書く活動に生かせるようにしたい。
- ・総合的な学習の時間で調べているりんごについての説明文を書く活動を取り入れることで、自覚した言葉の力を活用することができるようにする。
- ・「食べ物のひみつを教えます」においては、総合的な学習の時間で調べ学習を進めている資料を活用しながら、りんごの加工品についての文章を書かせる。その際、「すがたをかえる大豆」の文章の構成や書き方を生かして下書きを作成し、相手に伝わりやすい構成を話し合った上で文章にしていく。
- ・「すがたをかえる大豆」の学習を通して、筆者が自分の意図に対応させながら事例を挙げ、構成を考えて文章を書いていることに気付かせ、そのことを自分が書く文章にも生かすことができるようにさせたい。
- ・二年生に対して、魅力が伝わるりんごの加工品を紹介するという目的で文章を書かせる。目的意識をもたせ、意欲を高めながら学習へ向かわせるとともに、伝える相手や目的に合わせた文章を書くことを意識させながら活動に取り組ませる。

### III 単元について

#### (1) 単元の目標

- 比較や分類のしかた、資料の集め方や選び方を理解し正しく使うことができる。【知識及び技能（2）イ】
- 書く内容の中心を明確にし、段落相互の关系到注意して文章の構成を考えることができる。

【思考力, 判断力, 表現力等 B(1)イ】

○段落相互の關係に着目しながら, 筆者の考えと, その基となる理由や事例などとの關係について, 叙述から捉えることができる。

【思考力, 判断力, 表現力等 C (1) ア】

○学習したことや友達の意見を生かしよりよい文章で書き表そうとしている。

【学びに向かう力, 人間性等】

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 資料の比較や分類のしかたを理解し, 適切に使うことができる。</p> <p>(2)イ</p>	<p>① 「書くこと」において, 書きたい内容の中心を明確にし, 段落相互の關係に注意して書き表している。 (B(1)イ)</p> <p>② 「読むこと」において, 段落相互の關係に着目しながら, 考えとそれを支える理由や事例との關係などについて, 本文の叙述を基に捉えている。 (C(1)ア)</p>	<p>① 既習事項や友達の意見のよいところを見付け, 改善を繰り返し図りながら学習に取り組み, 表現を工夫して文章に表そうとしている。</p>

(3) 単元の指導計画及び評価の計画 (全10時間)

時 次 間	主な学習活動	◆教師の支援	・主な評価規準
1	<p>○教師の例 (絵巻物) の文を読む。</p> <p>○単元の学習課題と, 学習のすめ方を確認し合う。</p>	<p>◆教師の作成した例や単元の学習計画を提示することで, 学習の見通しをもたせる。</p>	<p>・単元の目標を知り, 学習の見通しをもちながら取り組もうとしている。</p>
<p>【単元の学習課題】</p> <p>「絵巻物の加工食品についてまとめた「いんげん絵巻物」を作って、一年生に紹介する。</p>			<p>【主】 (観察・発</p>

2	<p>○これまでの学習した説明的な文章を振り返り、「はじめ」「中」「終わり」のまとめや、事例の並べ方に注意して読む。</p>	<p>◆以前使った掲示物などを提示することで、学習内容を振り返りやすくできるようにする。</p>	<p>・既習の内容を振り返り、単元の学習と結び付けて考えようとしている。</p> <p>【思】（発言・記述）</p>
3	<p>○知っている大豆食品について話し合った上で「すがたをかえる大豆」を読み、内容の大体をとらえる。</p>	<p>◆おおまかな内容を全員で確認することで、読み取りのための土台を揃える。</p>	<p>・文章の大体の内容を捉えるとともに、単元全体の学習への見通しをもっている。</p> <p>【思】（発言・記述）</p>
4	<p>○「中」の部分で筆者が挙げている事例と説明の順序を確認する。</p>	<p>◆教材とは違った順序で提示していくことによって、事例の説明の順序性への意識付けを図る。</p>	<p>・一つ一つの事例について理解し、説明の順序性に気付いている。</p> <p>【知】（発言・記述）</p>
5	<p>○事例の書き方を比較しながら読み、筆者の文の説明の工夫を考える。</p>	<p>◆筆者の説明の工夫を見付け、絵巻物を書く時に使える「わざ」を考えさせる。</p>	<p>・一つ一つの事例について理解し、筆者の説明の工夫に気付いている。【知】（発言・記述）</p>
6	<p>○「一番すがたをかえているものはどれか」を話し合いながら、説明を読み取る。</p> <p>○筆者がこの順序で説明したわけを考えさせる。</p>	<p>◆読み手によって着目している点や「一番すがたをかえている」根拠となるものが違うことを確認する。</p> <p>◆読みの視点を明確に与えることによって、筆者の立場から考えて読み取ることができるようにする。</p>	<p>・自分や友達、筆者の着目している点を比較しながら考えている。【思】（発言・記述）</p>

三	7	○「すがたをかえる大豆」の文章の書き方を基に、りんごの加工品についての下書きを書く。	◆どんな加工品についての文章を書くかを話し合い、三品に決める。 ◆総合的な学習の時間で集めた資料を活用させる。	・集めた資料を効果的に使って文章を書いている。  【知】(記述)
	8	○加工品についての下書きを使って、「中」の構成を話し合う。  ( 本 時 )	◆二つの文例を比較し、構成の仕方が分かる言葉を見付け話し合う。 ◆全体での話し合いを基に、自分の文章を再考する。	・学習したことを基に、読み手に伝わる構成の仕方 で文章を考えている。  【思】(ワークシート)
	9	○下書きを使って、りんごの加工品についての文章を清書する。 ○書いた文章に挿絵を入れ、絵巻物にする。	◆これまでの学習や友達からのアドバイスを参考にした上で、自分たちなりの視点をもって作成していくことを助言する。	・読み手にとって分かりやすい表現になっているかを考えながら文章を書いている。  【知】(記述)
	10	○作成した絵巻物を二年生の児童に観てもらい、コメントをもらう。 ○単元の振り返りをする。	◆学習で得た力を、言語活動にどう生かすことができたか、またどう生かしていきたいかという視点で振り返らせる。	・文章を読んだ感想を伝え合うことで、自分や友達の文章のよいところを見付けている。  【思】(発言・記述)

(4) 本時の目標 (8 / 10)

事例を構成するための根拠となる言葉を見付ける活動を通して、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えることができる。  
【思考・判断・表現B(1)イ】

(5) 本時の学習

学習活動	・教師の働きかけ    ◎評価    手立て    支援
------	------------------------------

○主な発問 ・予想される児童の発言・思考	
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが書いた下書きと、事例の構成の仕方を確認させる。</li> <li>・二つの例の「中」の部分の提示し、比較させる。</li> <li>①・・・事例の構成に対応した文が各事例に書かれている文章。</li> <li>②・・・事例の構成に対応した文が書かれていない事例が含まれる文章。</li> </ul>
<p>2 課題を確認する。</p> <p>3 課題解決のために全体で話し合う。</p> <p>○「はじめ」「終わり」の文から、①と②の文は、どんなじゆんだと思いますか。</p> <p>・①は、「いろいろな場面で食べられています」から始まっているから、よく食べるじゆんだと思います。</p> <p>・②は、作るじゆんだと思います。</p> <p>○順番は、どんな言葉から分かりますか。</p> <p>・①は、「いろいろな場面で」「秋に」「さくらまつりの時に」という言葉から、どんな時に食べるのかが分かります。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どちらの文の組み立てが読み手につたわるか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配付された文章を比較しながら、それぞれの文が「何じゆんでならんているか」が分かる言葉を見つけてサイドラインを引かせる。</li> <li>・それぞれの文章が、どんな順序で並べて構成されたものかを考えさせる。</li> <li>・それぞれの例の「はじめ」と「終わり」の文を提示し、どんな構成で書かれた文なのかを考えさせる。</li> <li>・二つの文章を比べ、構成が分かる表現が三つの事例全てに揃っているのどちらかを確認する。</li> <li>・①の文の方が読み手に対してよく伝わることを確認し、②に文にはどんなところが必要かを考えさせる。</li> <li>・下書きの時点で三つの事例に構成の仕方が分かる表現を取り入れている児童がいたら紹介する。</li> </ul>

・②は、りんごジュースがどうやって作られるのかが書かれていません。

○②の文章には、何があるともっとよくなると思いますか。

・りんごジュースの例に、作り方のことを書くといいと思います。

・例えば「かじゅうをしぼって作ります。」という文が入るといいと思います。

4 本時の学習をまとめる。

◎学習したことを基に、読み手に伝わる構成の仕方では文章を考えている。

(思考・判断・表現／ワークシート)

支構成に迷う児童のために、ペアで確認する機会を設ける。特に同じ構成の仕方を考えている児童同士でペアが組めるよう配慮する。

振り返りと既習の活用

「わかったこと」「かかわり」「これから」の三つの視点のうち、特に「これから」について重点的に振り返りを書かせることで、学習したことを次時でどのように生かしていきたいかを自覚させる。

支自分で書き込むことが難しい児童には、友達のを参考にしてもよいことを伝える。

読み手につたわる組み立ては、①の文章である。

清書していくことを予告する。

5

全体での話し合いを基に、自分の文の組み立てを見直す。

・自分は「よく食べる順」で文を組み立てていたけれど、どんな時に食べるかが書かれていなかったから付け足そう。

・文を比べてみたら、順序が違うかも知れないと思ったから変えてみよう。





物  
の

リ  
の

リ  
の  
リ  
の  
リ  
の  
リ  
の  
リ  
の  
リ  
の

はじめ ☆問いの文を入れましょう。

みなさんはりんごは好きですか。  
じっはりんごはそのまま食べるだけではなくいろいろ調理されて  
います。どんな調理方法があるのでしょうか。

中

☆こうせい(作手)の仕方(かんじんじゆん)

①りんごあめは、あめをりんごにからめて作ります。すぐくぱりぱりしておいしいです。  
②りんごのマフィン(作手)はりんごやたまごなどをまぜて、かたこ入れて作ります。フワフワしていておいしいのでぜひ作ってみてください。  
③りんごアイスはりんごや牛乳などをまぜて、ひやして作ります。つめたくておいしいので作って食べてみてください。

おわり

☆「このように」でまとめましょう。

このようにりんごはいろいろな食べものにアレンジしているのです。ほかにもいろいろなものがあるのでぜひ作ってみてください。

はじめ

☆問いの文を入れま

みなさんは、りんごは好きですか？  
じつはりんごはそのまま食べるだけでは

あめをりんごにからめて作ります。

りんごやたまごなどをかたに入れて、やして作ります。

りんごや牛にゅうなどをまぜてひやして作ります。

があるの

仕方 (かん)

めをりんごにからめくばり。ぱりしておいしいです。

りんごやたまごなどを

やいて作ります。フワフワとみそくたさ。や牛にゅうなどをまぜて、めたくておいしいので作て

このようにりんごはいろいろなたのです。ほかにもいろいろなものがあるんださい。

りんごはいろいろなたべものはんしんして、るのです。

どんな調理や加工の方  
ほうがあるのでしょうか

みなさんは、りんごは好きですか。

じつは、りんごはそのままで食べるだけではなく、いろいろな調理されています。どんな調理方や加工

のしかたがあるのでしょうか。

たとえば、りんごあめはあめをりんごにかうめて作ります。

すごくパリパリとおいしいです。

また、りんごのマフィン、りんごやたまごなどもまぜてかたに入

れてやいて作ります。フワフワしておいしのでぜひ作ってみて

ください。りんごアイスは、りんごや牛乳、クリームをまぜてひやして

作ります。つめたくておいしので夏などに食べるのがおすすめです。

このように、りんごはいろいろな食べものに、へんしんして

いるのです。ほかにも、いろいろあるのでぜひ作ってみてくだ

さい。



はじめ

☆問いの文を入れましょう。

みなさん、りんごは好きですか？

りんごには、いろいろなたたかたがあるのです。

中

☆こうせいの仕方(あんまりたべない、ん)

たとえばりんご、ケーキは、りんごをあまくして

ほかにもアップルパイは、パイのキョじをあみがた

にしてわいてたべます。アップルパイは、いろいろな形であま

くして、りんごジュースは、りんごからしるをしばり

だして、さとうをいれてかき混ぜたらかんせいです。りん

ごジュースのさとうはたくさんあるさうです。ほくもりんご

をよくだべます。

おわり

☆「このように」でまとめましょう。

このようにりんごには、いろいろなたたかたがあるのです。  
みなさん、もつくとみてくださいますか。

りんご絵

りんごはいろいろな形があります。

名前

はじめ

みなさん  
りんご

か？  
かあるのです。

りんごケーキはりんごをあ  
まくしてケーキにはさんで  
たべます。

アップルパイはパイのまじり  
みかたにしてやめてたべま  
す。

りんごはスライスしてりんごが  
きるをしほりだし又さとうを  
いれてかき混ぜたりかんせい  
です。

の仕方(あんまりたべないし、ん

ケーキはりんごをあまくして  
たべます。

アップルパイのまじり

アップルパイはいろいろな形です。

りんごからしるをしほり  
かき混ぜたりかんせい  
たべます。ほくもりんご

ように」でまとめましょう。

いろなた  
くたせ

りんごにはいろいろな  
たべかたがあるのです。みな  
さんもたべてみてください。

みなさんりんごは好きですか？  
りんごにはどんなたべかたがあるのでしょうか。  
たとえばりんごケーキはりんごをあまり  
して、ケーキにはさしでべます。

ほかにもアップルパイはパイのきじをあみが  
たにしてやいてたべます。アップルパイはほかにも  
いろいろなかたちでたべられています。  
そして、りんごジュースはりんごからしるをし  
ぼりだして、さどうをいれてのみます。  
ぼくも、りんごジュースはよくのみます。

このように、りんごには、いろいろなたべか  
たがあるのです。みなさんもつくってみましょ

たきましょ。



りんご  
ジュース

アップルパイ



はじめ

☆問いの文を入れましょう。

みなさんはりんごが大好きですが、わたしたちのみのまわりではりんごがいろいろなほうほうでちゅうりりされていきます。どんなほうほうでちゅうりりされているのでしょう。

中

☆こうせいの仕方へわかりやすく書いてください

一番わかりやすいのは、わたしたちのほうほうです。りんごに、レモンじゅースと、水をくわえて、にると、りんごになります。

また、このセラーチンの力をかりたく、ほうほうもあります。りんごをセラーチンにるとかたまって、りんごゼリーになります。

次に、わたしたちの色のえきたいの力をかりて、わたしたちのほうほうもありません。水とさとうをに混ぜ、その中にある色のえきたいをいれませ、そのえきたいりんごをくれとりだしたものがりんごあんめになります。

おわり

☆「このように」でまとめましょう。

このようにわたしたちのみのまわりでは、いろいろなほうほうでりんごがちゅうりりされてきたのです。

みなさんはりんごが  
はじめすきですか。

みなさん  
りんご  
さ  
れ  
どんなほうほうで  
ちゅうりさせたい  
るのでしよう。

中  
☆こうせいの仕方(わがりやさん)

一番わがりやさんのほうは、こ  
りんごに、レモン汁を  
にると、りんごにな  
また、こなせ  
す。りんごゼラチン  
りんごゼリー

次に、  
たべるくふうもあ  
その中であかい色  
にりんごをんれと  
なりませす。

おわり  
☆「このように」

このようにおたしたちの  
なほうほうでりんご  
です。

ましよう。  
か。わたしたちのみのま  
なほうほうでちゅう  
ほうほうでちゅうり

①りんごに、レモン汁を  
さとうをくわえ  
てにるとりん  
ごになります。  
②りんごをこなせ  
ゼラチンにする  
とりんごゼリー  
になります。  
③水と\*とつを  
にてませませませ  
たものにあかい色の  
えきたいをいれませ  
そのえきにりんご  
をんれとちゅうり  
たものがりだんか  
あめです。

みなさんは、りんごがすきです。わたしたちの  
みのまわりでは、りんごがいろいろなほうで

ちょうりされて、います。どんなほうでちょうりされているの

ょう。一番わかりやすいのは、たべてみるく、ほうです。

たごにしモンじる、ヤとくをくわえてにるとにりんごに

なります。また、こなゼラチンの力をかりたくふうもあります。

りんごどこなゼラチンをまぜるかたまり、りんごゼリーになり

ます。次にたべれるあかい色のえきたいの力をかりて

たべるくふうもあります。水とさとうをにてまぜその中に、

あかい色のえきたいを入れまぜます。そのえぎに、

りんごを入れとりだしかたまらせたものが、りんご

あめになります。このようにわたしたちのみの

のまわりでは、いろいろなほうでりんごが

ちょうりされてきたのです。

